

令和7年度 学校魅力化フォーラム

テーマ

総人口減少時代の学校づくりに 求められるもの

講演者

丹間 康仁

(筑波大学 人間系 准教授)

2026年1月30日
オンライン (YouTubeライブ配信)

はじめに ~事例発表を受けて~

◎事例発表(福島市, 松本市, 高島町)から学んだこと

- ・「育てたい子ども像」を軸とした、教育課程を実現するための学校づくり
【注目点】教育目標「主体性・協働性・創造性」(福島市), 児童・生徒「他者理解・人間関係の構築」等(松本市)
☞ 学校づくりの方向性が明確に定まる。目指す方向性を家庭や地域と共有できる。
- 【注目点】開校後における地域探究学習「まつかわ学」の展開(福島市)
学区内外の子どもを交えた教育活動の展開(松本市, 高島町)
☞ 「こんな学校教育を実現したい」が目的にあり, 統合や存続などはそのための手段。
- ・子どもにとっての社会関係を学校・地域・家庭で醸成
【注目点】「まつらぼの実際」や「異学年交流」(福島市), 「新たな価値観と出会うきっかけ」(松本市),
町内受入校とDS送出校との交流も模索(高島町)
☞ 子どもが社会関係を広げるための条件整備に, 大人が責任をもって取り組んでいる。
- ・地域活性化やまちづくりへの波及効果
【注目点】探究学習を通じた地域協働(福島市), 旅館の受け入れ拡大(高島町), 施設整備や移住促進(松本市)
☞ 学校魅力化の取り組みを核に, 地域の多様な主体が動き出す。

2

はじめに ~皆さんと考えたいこと~

◎総人口減少時代の学校づくりには、何が求められるか？

本講演の着眼点

ネットワーク

協働

持続可能性

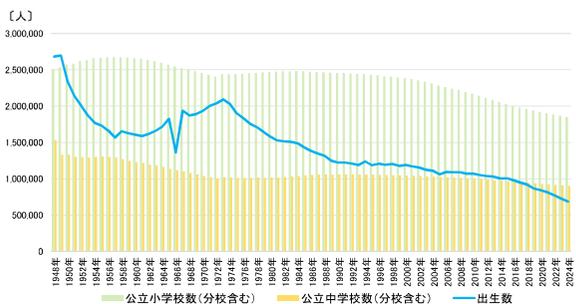


図 日本における出生数と公立小・中学校数の推移
(出典)「人口動態調査」及び「学校基本調査」に基づき作成

- ・出生数の減少が加速し、2024年は70万人を下回る。
- ・公立小は1990年代以降の減少が著しい。公立中も追隨して緩やかに減少している。
- ・小中在学者数ピークは1961年。第二次BBで再上昇も、1982年以降は長期的な減少局面に。

3

1. 教育のネットワークを築く

◎人口減少局面では、ネットワーキングが引き続き重要な戦略に。

「4種のネットワーキング」

1. 他の政策領域とのネットワーキング
2. 複数学校のネットワーキング
3. 地域とのネットワーキング
4. 自治体間のネットワーキング

(令和元年度「学校教育魅力化フォーラム」貞広先生講演より)

〈本講演での着眼点〉

- ・生きることのネットワーキング
- ×
- ・人材のネットワーキング

- ・人口という足し算の論理から、関係としての掛け算の論理へ。
☞ 各学校単位の児童・生徒数の中でできることを考えるのではなく、そこから築きうる社会関係に着目し、対話や学び合いを構想する。加えて子どもの生活や生涯という視野から、地域・学校間の連携のみならず、学校外における多様な拠点間や機関間の連携を構築する。

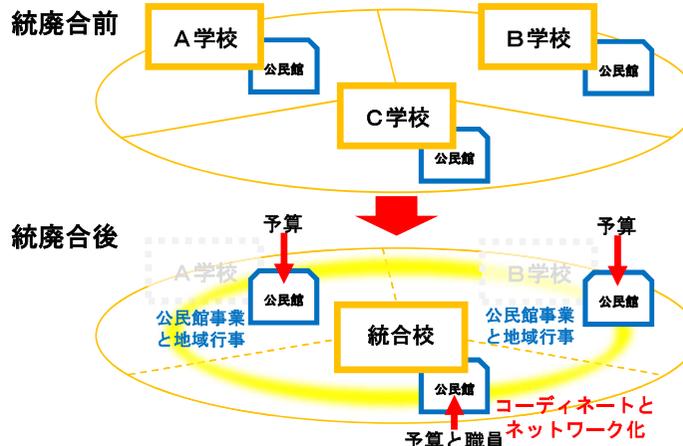
4

1. 教育のネットワークを築く

(1) 生きることのネットワーキング～生活・生涯・共生としてのlife～

- ・子どもの生活という視点から考える。
 - ☞ 学校を統合する場合、放課後の時・空間のデザインが必要に。
 - 例) スクールバスのダイヤとルート次第で、遊びと生活までも「統合」される。
- ・子どもの生涯という視点から考える。
 - ☞ 幼・保・こ施設の存続と小学校への接続、高校教育環境の保障も考慮。
- ・学校教育と社会教育の再編×連携
 - …学校統廃合後の公民館の役割、小規模校存続時の学校の自律的経営
 - 子どもの数に依拠した学校教育 ⇔ 高齢者まで対象にした社会教育
 - ☞ 少子高齢化下で、特に地区レベルにある公民館の役割への期待が高まるともいえる。例) 地域の防災機能維持、地区行事の継承、多世代交流事業 etc...

1. 教育のネットワークを築く



- ☞ 学校統廃合の実施前後において新旧の通学区のコミュニティを複層的に構想。
- … 公民館の役割が一層重要に。

図 学校統廃合後の地域教育体制の構想
(出典) Yasuhiro TAMMA "How Are Communities Affected by School Consolidation? Focus on Non-formal Education in Rural Areas of Japan Where the Rapidly Aging Society" World Education Research Association 2021 Virtual Focal Meeting での発表資料に基づき日本語訳

1. 教育のネットワークを築く

◎ 現代的な教育課題への対応

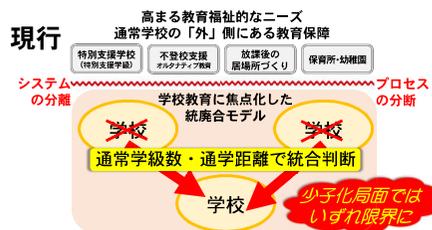
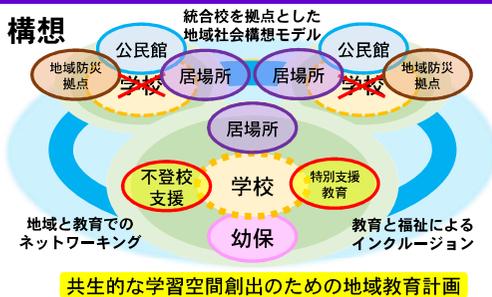


図 学校統廃合システム再構築への仮説
(出典) 丹間康仁作成



共生的な学習空間創出のための地域教育計画

- ・学校内外で教育ニーズが高まる中、領域毎での取り組みが進んできた。
 - ☞ 学校は学校の基準に従い再編整備。しかしその中で、各支援システムとの分離や整備プロセスに分断も生じる。
- ・共生を意識したモデルに転換(試論)
 - ☞ 学校を統合する場合、旧学区単位の地域と新学区全体の地域にそれぞれ必要な機能を検討し、その拠点を総合的に整備。
 - ☞ ネットワーキングとインクルージョンの視点で。

1. 教育のネットワークを築く

(2) 人材のネットワーキング～関係人口への視点～

- ・「育てたい主体性とは何か？」をよく話し合う。
 - ☞ 子どもが会い学び合う“他者”を、具体的にどのように想定するか？ そのために必要な環境や関係を醸成できるか？
- ・関係人口の考え方
 - … 定住人口と交流人口の間。「担い手」としての存在。特定の地域に継続的に関心を持ち、関与する。
 - (出典) 田中輝美『関係人口の時代』中央公論新社、2025年、pp.8-11。
- ・「誇りの空洞化」を招かないために。(出典) 小田切徳美『農山村は消滅しない』岩波書店、2014年、p.41。
 - ☞ 高齢者はもちろん、子どもがこの地域と学校に自信と誇りを持てるように。よそ者の視点や関与を通して、価値の言語化や豊かさのとらえ直しを図る。
 - 例) ICTの活用、教育留学の展開、遠隔でのネットワーキングを広げる。

2. 協働のプロセスで計画をつくる

◎地域との協働で進める学校づくり

- ・ 議会のみでは進んでいかない学校統廃合計画
 - … 学区や校区など自治体内の一定区域が対象であることが多い。問題の当事者をどのような属性や範囲でとらえるかが難しい。
 - ☞ その中で、説明会や懇談会の開催、アンケートの実施、広報の工夫など、様々な方法によって住民の合意を調達しようとしている。
 - ⇔ 住民も一枚岩ではなく、世代間や地区間で葛藤や対立が生じたり、様々な団体が議会に請願したりするなど、混沌とした様相になる場合も。例) 保護者と地域住民の合意形成を別立てで進める場合も。
- ・ 他方でこの間、地域と学校の協働の制度化が進んだ(コミュニティ・スクール)。
 - … 「育てたい子ども像」は、学校づくりと関連づけて協議されているか？
 - だからこそ、協働をキーワードに進め方を再考してみる。

2. 協働のプロセスで計画をつくる

◎学び合いを基盤とした協働

共同 協同 協働

- ☞ 協働は、同じでないことが重要。関係が有効に機能することでのコラボレーション。

・協働の再定義…対等ではない状況がスタート

「協働とは、住民と行政機関が、互いに非対等な関係性にあることを自覚しながらも、既存の関係性を学習によって揺るがして是正しようと試みあうことで、地域や自治体の課題解決に取り組んでいく過程である。」

(出典) 丹間康仁『学習と協働—学校統廃合をめぐる住民・行政関係の過程—』東洋館出版社、2015年、p.216。

「協働は、異なる立場にある者どうしが、互いの立場や特性を分かり合い、そのうえで学び合い、力を出し合うことによって、単独ではなしえない成果が生まれたり、当初は予期していなかったような効果がみられたりすることを期待した概念」

(出典) 丹間康仁『地域と学校の協働を自分たちのものにするために』ノースプロダクション編『地域とともにある学校づくりをめざして』文部科学省委託事業成果物リーフレット、p.20 (https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2015/07/27/1351468_7.pdf)。



詳しくは著書にて

2. 協働のプロセスで計画をつくる

(1) 情報をめぐる学び合い

- ・ まずは、話し合いのための共通のテーブルを作る。
 - ☞ 参加者をどうするか 等
- ・ そのうえで、情報共有を図る。
 - 例) 年少人口の推計や学校教育活動の状況など
 - ⇔ 提示される情報がすべてではなく、必要な情報を独自に収集する必要。
- ・ 情報は変わる+変えられる。
 - 例) 定住推進を踏まえ再試算

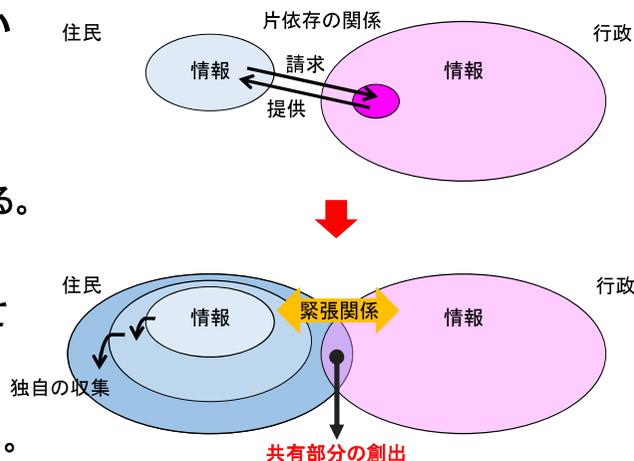


図 情報の限定的提供と自発的収集による共有化の構図

(出典) 丹間康仁『学習と協働—学校統廃合をめぐる住民・行政関係の過程—』東洋館出版社、2015年、p.206、11

2. 協働のプロセスで計画をつくる

(2) 目的をめぐる学び合い

- ・ 協働に求められる共通目的
 - ⇔ 学校づくりをめぐる立場によって多様な意見や思いも。
- ・ 学校づくり計画を進める行政側にとっての課題感は何か？
 - … 保護者や住民からは疑問や反対が示されることも。
 - ☞ 掘り下げていくことで、「こんな子どもを育てたい」等の共有部分を見いだしていく。

learn と unlearn

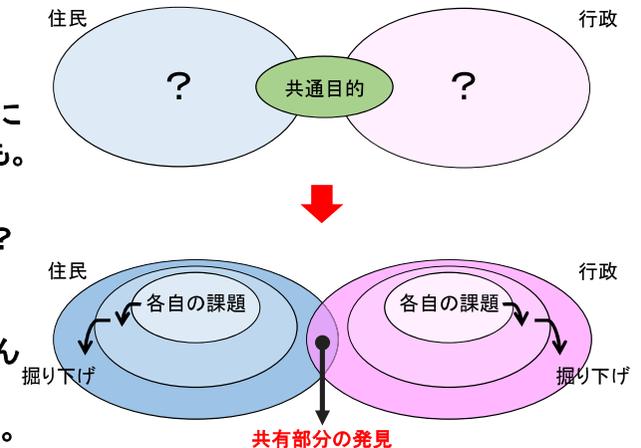


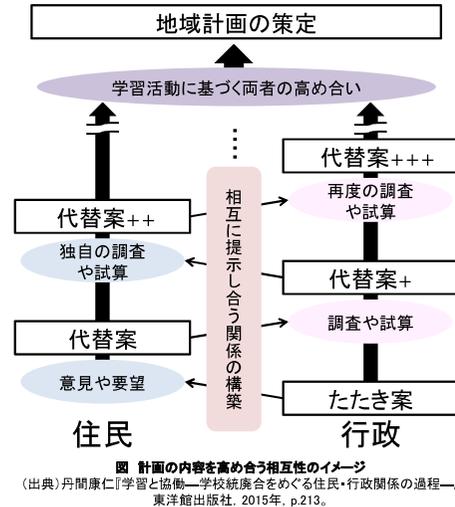
図 課題認識の重層的把握による共有部分の発見

(出典) 丹間康仁『学習と協働—学校統廃合をめぐる住民・行政関係の過程—』東洋館出版社、2015年、p.210、12

2. 協働のプロセスで計画をつくる

(3) 計画案を高め合う関係性

- ・単独では成しえない結果が生まれるからこそ、協働で進める意味がある。
 - ☞ 行政主導の計画への合意調達を自己目的化し、そのための説明会で説得を繰り返しても生産性は低い。
 - … コミュニケーションの場、対話の場として共通のテーブルを設けて、地域や家庭の情報と課題をよく踏まえながら計画をブラッシュUPする過程。
- ・対象地域の保護者や住民の自治の経験を踏まえて進め方と関わり方を設定する。

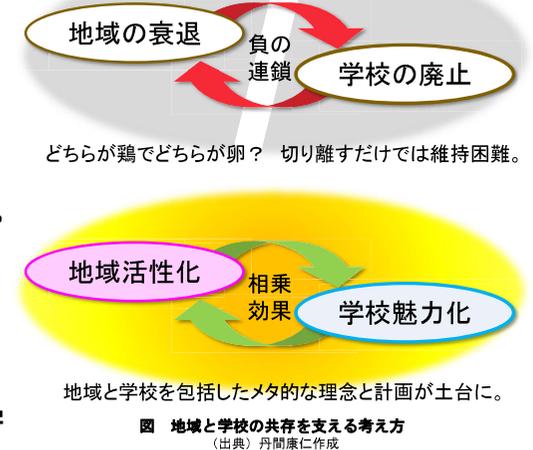


13

3. 教育の持続可能性～地域に何を残していくのか？～

◎グランドデザインの必要性

- ・学校を核として地域共同体を形成し維持してきたという長い歴史がある。
 - ☞ 運命共同体としての地域と学校
 - ・学校存続・統合の「鶏と卵」問題
 - … 地域の少子化により学校は小規模化。学校がなくなれば地域の少子化は加速。
 - ・負の連鎖を断ち切るための方策
 - … 学校の未来と地域の未来を切り離れた議論ではなく、両者を包括する理念と計画を展望することで、各々のとりうる方策が見えてくるのではないかと。
- 例) 関係人口創出＝移住促進×教育留学



14

3. 教育の持続可能性～地域に何を残していくのか？～

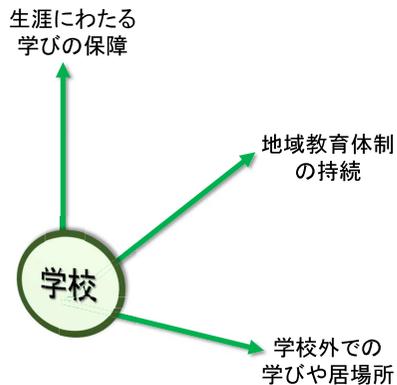


図 学校のあり方を考える立体的な視野のイメージ
(出典) 丹間康仁作成

◎学校のあり方を考えるための視野

- ・子どもたちにとっての学びの場(横軸)
 - ☞ 学校外での学びの場や居場所もとらえながら、子どもの生活と学習の保障を考えていく。
- ・子どもから大人まで続く学びの機会(縦軸)
 - ☞ 幼保小中高の連携、社会教育との連携・接続も見据えながら、生涯にわたる学びを構想する。
- ・持続可能な地域教育体制の構築(奥行き)
 - ☞ 学びの空間と時間を拡大した視野で考えれば、政策選択の幅が広がる。

立体的な視野を持ちながら
 学校のあり方や教育課程を議論する。

15

3. 教育の持続可能性～地域に何を残していくのか？～

◎まとめに代えて

私たちが地域に残していきたいものは何か？

- ・規模×配置×時期(時機)
 - 「いつ着手するのか?」「いつ実現するのか?」「どこまで見通すことができるのか?」
 - ☞ 児童・生徒数の推計だけでなく、世代の交代、校舎の経年、物価の変動 etc...
 - … 慎重さや丁寧さにこだわるあまり、現状に向き合うことが先送りにならないように。
 - ・合意形成を通じた力量形成、さらに主体形成へ。
 - 「誰が決めるのか?」…計画づくりがゴールではなく、動き出してからが本当のスタート。
 - ☞ 検討過程でともに悩み考え関わることで、その後の学校づくりの担い手が育つ。
- 学び 人間を、成り行き任せの客体から、自らの歴史を作る主体に変えていくもの。
(ユネスコ「学習権宣言」1985年より)
- ・学校の存続や統合をきっかけに大人たちも学び合い、教育のコミュニティを形成・維持する。

16